

令和3年2月18日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）学校教育におけるSDGsの取組について

学校教育における持続可能な社会づくりの担い手の育成は、SDGsのすべてのゴールの達成に寄与するものである。

そこで、学校教育において、SDGsの精神をどのように教育し、どう浸透させて徹底を図っていこうと考えているのか、教育長の所見を伺う。

（答）

SDGsは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指した国際目標であり、社会のあらゆる主体が積極的な役割を果たすことが期待されていることから、学校におきましても、児童生徒がその創り手となるための資質・能力の育成に向けた取組を推進する必要があると認識しております。

本県におきましては、平成26年に策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に基づき、変化の激しい社会を生き抜くことのできる資質・能力の育成を図るため、児童生徒の主体的な学びを促す取組を推進しており、その中で、SDGs達成に向けた取組についても、各教科及び総合的な学習の時間等で行っております。

例えば、東広島市立入野小学校では、総合的な学習の時間において、世界の飢餓の問題について学習した上で、自分たちにできることを考えて実践しております。

また、広島叡智学園中学校では、未来創造科において、循環型社会の形成に向けて、地元の水産会社に働きかけ、かき殻の再利用に取り組んでおります。

さらに、安古市高等学校では、総合的な探究の時間において、都市に発生する問題について、SDGsの視点から研究テーマを設定し、身近な地域の防災・減災に向けての解決策を提案し自ら実践するなどの取組を進めております。

県教育委員会といたしましても、『学びの変革』の一層の推進を図る中で、現代社会における様々な問題を、児童生徒一人一人が自らの問題として主体的にとらえ、身近なところから取り組む学習を通して、持続可能な社会の創り手となるよう、学校及び市町教育委員会を指導・支援してまいります。